



地域で支える防災協働ネットワーク ～SSG仙台発そなえゲーム～

市民協働による地域防災推進実行委員会

【解決すべき課題&方向性】

- * 「命を守る・減災につながる」を柱に、**具体的行動を促す体験の実施と啓発**
- * 今後必要となる**「大切な事前の具体的な準備と連携の実践を行う」ゲーム開発**
- * 東日本大震災を体験した地域住民の一人として、
地域、学校、行政等間の連携と未来への東日本大震災の教訓の発信

【市民の声】

○平成23年、24年東中田地区では今後の防災について地域住民との意見交換などでアンケート調査を実施→
地域の中で連携して防災活動を実践していく必要がある。

○平成24年、25年度のパイロットプロジェクト事業に関わっていただいた東中田地区、仙台市内の協力者、防災士、教育機関、全国のアドバイザーからも
→
「自助・共助・連携」のゲーム開発、
さらには学校教育用防災教育教材の開発が必要がある。

【事業実施によりもたらされる効果、成果目標】

- 自助、共助、連携の視点を取り入れた
市民の中から生れる防災意識の涵養
- 地域に根ざしたコミュニティづくりを
主眼とした地域連携を図るための具体的
行動の示唆
- 未来につなぐ市民の新たな防災意識、
防災教育の取り組みの促進

地域で支える防災協働ネットワーク ～「SSG仙台発そなえゲーム」の開発・普及～

東日本大震災及びその後の発災から見えてきた「命を守る・減災につながる」具体的行動を促す体験の実施と啓発が課題である。



「なすことによって学ぶ」気づきのゲームの開発

- 東日本大震災の教訓を活かす仙台から発信する
「自助・共助・連携」をキーワードとする地域コミュニティの
活性化を図る新たな仙台発体験型ゲームの開発
- 具体的には、仙台市地域防災計画中間案にも述べられている「自助・共助」(市民力)と「公助」の協働による「減災」が基本
- 地域の中に小さい単位ごとのつながりがもてるように「市民の命を守る・つなぐ」という精神で、市民一人ひとりによる減災への試みや意識を具現化できるゲームを開発

パイロットプロジェクト協力者100名

- * **アドバイザー**(17名)・・・全国から
「HUG」開発者・被災地支援・防災学習推進者・阪神淡路
や輪島地震体験者・ワークショップ開発推進者・大学や学識
経験者・防災士等
- * **仙台市内協力者**(17名)・・・仙台市各区から
町内会長・地区社協会長・民生委員・NPO・被災地市民等
- * **東中田地区協力者**(49名)
学校・町内会・地区社協・民生委員・PTA・社会福祉法人・
NPO・消防団・体育振興会・老人クラブ・市民センター等
- * **行政**・・・仙台市消防局・市民局・教育局など

パイロットプロジェクト会議



実行委員会
毎週1回



仙台市内協力者会議



アドバイザー研修会

SSG仙台発そなえゲーム実施会



東中田地区



仙台市内協力者



SSG仙台発そなえゲーム実施会



山形県立上山明
新館高校



学びの力で仙台
を元気にする
実行委員会

「高齢者にやさしいまち」

【課題シート】

名前

課題：災害に備えて自分がしておきたいこと、できることは？

災害時の家族間の取り決めをしておきたいです。そうしたら、
災害があっても集まることができると思いました。

袋原中学校



成果目標の達成

1. 東日本大震災を体験した仙台市民として震災の教訓を後世に伝えていくことが使命であると考え仙台市と協働で実行委員会を立ち上げ、将来にわたり震災の教訓が伝わるように「**なすことにより学ぶことのできる**」防災ゲームの開発に取り組みました
2. 「SSG仙台発そなえゲーム」は、参加者一人一人が架空の住民になって「災害に備えるために、自分や地域に何が**必要か**」について考えながら**実践的に防災・減災を学ぶことができる体験型のボードゲーム**として完成できた
3. 少子高齢化に伴い、ひとり暮らしの高齢者の増加や災害時の要援護者支援の問題等、従来の地域コミュニティとは異なる様々な問題を抱えていた状況の下に東日本大震災が発生し、私たちは「**日頃からの備え(自助)**」と「**人のつながり(共助)**」の**大切さ**を改めて気づかされ、地域やその教訓を未来へ、全国へ伝えることや**学校、様々な団体間での共有ワークのツールとして活用できるゲーム**として完成した。

協働による役割

「体験型そなえゲーム」の完成

	協定上の分担項目	具体的な活動内容
実行委員会	1 企画及び実施	実行委員会開催、体験会開催
	2 記録及び報告書の作成	随時
	3 広報・PR	HPや広報物の作成

	協定上の分担項目	具体的な活動内容
市	1 助言等参画	* 消防局の助言が必要なときに会議に参加
	2 庁内関係部署との連携調整	* 具体的なつなぎ先＝消防署関係
	3 関係機関との連携調整	* 随時、問い合わせ対応

普及活動

	協定上の分担項目	具体的な活動内容
実行委員会	1 企画及び実施	体験会開催
	2 人材育成	養成講座(平成26年度)
	3 協力機関との連絡調整	随時、体験会参加の依頼

	協定上の分担項目	具体的な活動内容
市	1 助言等参画	* 具体的にいつのタイミングで消防局の助言
	2 庁内関係部署との連絡調整	* 具体的なつなぎ先＝区まち課、消防署関係
	3 関係機関との連絡調整	* 随時、問い合わせ対応

協働による役割

<普及啓発の動き>

	協定上の分担項目	具体的な活動内容
実行委員会	1 企画及び実施	体験会開催
	2 人材育成	養成講座(平成26年度)
	3 協力機関との連絡調整	随時、体験会参加の依頼

対象者	つなぎ役	機会
町内会ルート	市民協働推進課	町内会の防災訓練など
教育ルート	実行委員会 小岩	社会学級、放課後こども教室、学校支援地域本部、PTA協議会、学コミ5団体
一般市民ルート	減災推進課	「せんだい防災のひろば2013」参加

協働したメリット

防災・減災を見据えた「日常のそなえの大切さ」や「地域での役割」を考えたりする際に活用できるゲームが完成！！

[キーワード]

○担当課からの専門的な助言

○事業資金

○市民の声を仙台市が受け止めてくれ、共有できたこと

→「SSG仙台発そなえゲーム」を完成させ、全国からも反響があるなどの成果を上げたこと

協働したメリット

- 行政による公助の限界、自助・共助が重要であることを考えてもらうゲームである
 - 家庭内備蓄や地域助け合いの必要性を具体的に伝える手段として有効である。
 - ゲームを通じて、市の避難所の位置づけや備蓄状況などを伝えられる。
- 全市一丸となった防災・減災対策の推進の「きっかけ」として期待
 - 市の取り組みを知ってもらい、市民・地域・行政の役割分担を理解してもらう。

今後の展開と課題

■ H26の普及啓発

「SSG仙台発そなえゲーム」体験会を、さまざまな場所で開催し、「気づき」が得られるようにすることを目指す。

- * ファシリテーター養成
- * 中学校などの教育現場での体験会
- * 各事業との連携
- * 他都市への普及

H25年度は輪島市、山形県立高校、多賀城市などで実施

H26年度は東京都板橋区から依頼あり。福井県社協等。

■ 今後も活動を継続するために、事業資金の調達方法・ゲームの商品化に関するルールづくり ・「そなえゲーム」に関するルール

被災地仙台から全国へ発信
未来に活かすあらたな防災

